



414
A 1670
1



十年度ノ豫算會計表ニ記載セル準備ノ金
 類コレヲ前年度ニ比較スレハ實ニ千万圓余ノ
 多ク増加スルヲ以テ論者或ハ其レ何故ナ
 ルカヲ疑フモノアリト聞ク依テ其原由ヲ説明
 シテ之カ惑ヲ解ント
 於テ準備ノ該年増加セシ原由ノ重ナルモノ
 ニリ其一ハ去ル八年會計年度ノ改正ニ際
 今年一月ヨリ六月マテ半歳ヲ以テ會計ノ區域
 ヲ立テシ故ニ此際ニ於テ歳入上巨多ノ残餘年
 上豫算表ニ計ヲ生ス而シテ其残餘ノ整理ニ隨
 該部ニ挿入セシニ仍レリ是レ則チハ年度豫算
 表例言ノ冒頭ニ掲ケル如ク乙部ニ殘高アレハ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈



之ヲ準備金額中ニ挿入スルノ例則ニ基キ處分
セシモノナリ其二ハ地租改正入費其他一時各
官廳等ノ繰替貸出ノ額ハ歲入金ヲ以テ理弁セ
シニ歲計上重複ニ渉ルノ掛念アルヲ以テ九年
度以降ハ全年度豫算表例言第七項ニ明示スル
如ク準備金中ニ於テ運轉融通スルノ一ニ改正
セリ依テ従前歳入ノ内ヨリ繰替中ノモノハ其
終準備金ニ挿入スルニ決セシヲ以テ其金高
ヲ繰入セシニ仍レリ是レ該額ノ前年ニ超過セ
シ所以ナリ而シテ其事由ヨ十年度豫算中ニ該
明ニサレ所以ノモノハ是等ノ事ハ決算ノ際ニ
於テ公示スルヲ期セシニ仍レリ
且然リ而シテ論者又々或ハ云ハ準備果シ

ニ於テハ是レ等ヲ以テ供給セシテ殊更ニ紙幣ヲ
増發シタ他ヨリ借入シテ支弁セシヤト夫レ
准レノ性質タル素ヨリ紙幣ヲ始メ諸公債等ヲ
維持シ且不虞ノ用ヲ量リテ豫メ備フル所ノモ
ノナレハ非常國難等際シ應支ス可キハ其分
ナリ故ニ初メ匪徒ノ羨滅セサルニ當リテヤ費
用多端ニシテ府庫殆シク缺乏ス依テ該部ノ金
貨ヨリ續々理弁應消セリ而シテ其額ノ頗ル夥
多ナルニ仍リ繼クニ他借ノ金額ヲ以テス然リ
ト雖モ此準備ノ金額タル當時西南征討ノ費用
ニノミ支出シテ得ヘカラス依テ更ニ紙幣
増發等ヲ以テ該部ニ返償セサレモ如何ト

ナレハ國家又々後難ナキヲ保
故ニ他ノテ之ヲ維持シ更ニ以テ
備ヘサリ可ラズ是レ其直チニ支
出シ了ルヲ行
ナル所以ノモノ一ナリ況ンヤ
此際華士族金祿
處分ノ為メ更ニ壹億七千万
田余ノ公債証書ヲ
發行セルニ付テハ之カ所
有ノ權アルヲ以テ其
賣買ヲ許サ、ル、得、然ル
片ハ價程随テ下落
スルハ必然ナリ如何ナレハ
衆士族中堅ネ貧
困ノモ、多キカ故ニ勢々之ヲ
典賣シテ融通ノ
便得ルニ急ナラントス即チ
前記發行ノ秩序
公債証書ノ如キニ於テ
尚ソノ下落ノ危
ナリシヲ以テ推シテ知ルヘシ
此ノ如キ場合ニ
於テハ到底政府ノ力ヲ以テ
其價ヲ維持セサル

可シニ苦シ夫レ之ヲ維持セ
ンヌルヤ必ス
準備ヨリ運用轉出セサル可
カラズ是レ其征討
費ノ為、直チニ支出シ了ルヲ
得サル所以ノモ
ノ二十ナリ且夫レ紙幣ヲ增
製セシニ付テ、目今
流通セル所ノ半田以下紙幣
ノ貨額貳千七百拾
万田余ハ明治十一年
ノ十五ケ年間ニ補助ノ
銀銅貨ヲ以テ悉皆之ヲ交換
シ紙幣ハ斷截ニ付
セシムルノ決議タリ而シテ
此交換ヲ為サント
スルモ亦々準備ノ運用ニ由
ラサルヲ得ズ是レ
其直チニ支出シ了ルヲ得
サル所以ノモノ三十
リ
原來西南ノ夢ニ於ケル全ク
准ハヨリ應消
セサルニ非スト雖、前陳ノ如
紙ノ支消及

1670
2

大正十一年四月
隈侯爵邸寄贈

明治十一年度豫算會計表ニ記載セル準備金
 額三十九百三万一千五百三十八圓五錢九厘コレ
 ラ前年度ノ金額貳千八百三拾四万四千四百拾六
 圓八拾錢四厘ニ比スレハ實ニ千五百圓餘ノ多キヲ增加スル
 ラ以テ議者或ハ其レ何ノ故ナルカラ疑フモノ
 アリト聞ク依テ其原由ヲ説明シテ之カ惑ヲ解
 ントス

抑モ準備ノ該年ニ増加セシ原由ノ重ナルモノ
 ニアリ其一ハ去ル八年會計年度ノ改正ニ際シ
 同年十月ヨリ六月マテ六歳ヲ以テ會計ノ區域
 ラ立ラシ故ニ此際ニ於テ歳入上巨多ノ殘餘額
 豫算表ニ計上ス生人而シテ其殘餘ノ整理隨

七百七拾万二千四百九拾九錢八厘
是レ則十八年度豫算表例ノ冒頭ニ掲ケル如ク
乙割ニ於テ贏アレハ之ヲ準備金額中ニ挿入
スルノ例則ニ基處分セシモノナリ其二ハ地
租改正入費其他一時各官廳等ニ繰替貸出ノ額ハ
歳入金ヲ以テ理弁セシニ歳計上重複ニ涉ル
ノ掛念アルヲ以テ九年度以降ハ同年度豫算表
例言第七項ニ明示スル如ク準備金中ニ於テ運
轉融通スルノトニ改正セリ依テ從前歳入ノ内
ヨリ繰換中ノモノハ其儘準備金ニ挿入スル
ニ決セシヲ以テ金高貳百八拾八万二千四百
八拾八圓九拾七錢九厘ヲ繰入シ其餘中計法
以テ隨分繰入セシ高拾五万貳千四百七拾七圓拾

九万九千五百三拾四圓二七錢九厘

錢九厘以上三件ヲ通計スレハ千七百七拾九萬
千九百六拾六圓九錢八厘ノ額ニ及ビ而シテ
詠冒額ノ内計算ニ重複等ニ仍リ更正減却セシ金
額五万貳千八百四拾四圓八拾四錢三厘ナル
リ以テ其増減ヲ對比計算スレハ千六百拾九万
貳拾七圓貳拾五錢五厘ノ増加ニシテ則チ前期
ノ準備額ト合計スレハ三千九百三万五千五百
三拾八圓五錢九厘ノ員額タリ是レ詠額ノ前年
ニ超過セシ所以ナリ而シテ其事由ヲ十年度豫
算中ニ説明セサレ所以ノモノハ是等ノ事ハ決
算ノ際ニ於テ公示スルニ期セシニ乃レリ
夫レ然リ而シテ議者又々或ハ云ハシ準備果シ
テ此ノ餘贏ヲラハ何ノ故ニ客歲西南征討ノ

歳首

費用ハ是レ等ヲ以テ供給セシメ殊更ニ紙幣
ヲ増發シ將ク他ヨリ借入シテ支辨セシムト夫
レ維持ノ爲ニ貨タル素ヨリ紙幣ヲ始メ諸公債等
ヲ維持シ且不虞ニ用ヲ量リテ豫メ備フル所ノ
モノナレハ非常國難等ニ際シ應文ス可キハ其
分ナリ故ニ初メ匪徒ノ撲滅セサルニ當リテ
費用多端ニシテ支出シト量ラレス依テ該部
ノ金員^{及ヒ他部ノ金員}應消セリ而シテ其額ノ頗
シ夥多ナルニ仍リ経ニ他借ノ金額ヲ以テス
然リト雖モ此準備ノ金額タル勉メテ之ヲ保持
シテ其欠額ヲ補ヒマサルヲ得ス依之^{紙幣}
増發^可ヲ以テ該部ニ返償シ付テ急需ニ備
ル可^クラス走レソノ欠額ノ補填ヲ要スル所

價位

爲メ吏ニ尙倍七千五百圓余ノ公債証書ヲ製造セ
ルニ付テハ其發行ノ期ニ及ンテ一時ニ典賣
ハ價程隨テ下落セサレテ保シ難シ即チ前年發
行ノ秩祿公債証書ノ如キニ於テスラ尚ソノ下
落ヲ免レサリシヲ以テ推シテ知ルヘシ若シ夫
レ此ノ如クナルハ則チ相当ノ價格ヲ維持ス
ルノ處分ヲ爲サレテ得サル場合ニ至ル可キ
モ圖リ難シ其時ニ際シテハ準備ヨリ運用轉出
セサル可カラズ是レ其欠額ノ補填ヲ要スル所
以ノモノナリ且夫レ紙幣ヲ増製セシメ付テ
ハ目今流通セル所ノ羊圓以下紙幣ノ負額貳千

義
旨

七百拾万圓餘ハ明治十一年ヨリ十五ヶ年間ニ
補助ノ銀銅貨ヲ以テ悉皆之ヲ交換シ紙幣ハ斷
截ニ付シタルノ決議タリ而シテ以テ交換ヲ為
サントスルモ亦ソ準備ノ運用ニ由ラサルヲ得
ス是レ其欠額ノ補填ヲ要スル所以ノモノ三十
リ
夫レ此ノ如シ故ニ紙幣ニ増發等ニ於ケルヤ則
チ衣中掲出スル所ノ三千九百三千五百三十
八圓五錢九厘ノ負額ニ全フスルニアルノミ